

札幌市では、下水道施設や下水の熱エネルギーを有効利用する雪対策事業を積極的に進めています。

下水道を活用した雪処理施設は、処理水を利用する「融雪槽」、「融雪管」、「流雪溝」と、未処理下水を利用する「下水道管投雪施設」、「地域密着型雪処理施設」に分類され、現在17か所の雪処理施設が整備されています。

これらの施設における雪処理量は、札幌市全体の排雪量の約1割を占めており、札幌市の雪対策に関する課題の解決に貢献しています。

融雪槽・融雪管

融雪槽や融雪管は、浸水対策や水質保全を目的として建設する調整池や雨水貯留管などを冬期間に融雪施設として活用するもので、ダンプトラックから多くの雪を水槽に受け入れ、融かすことのできる大規模な施設です。

施設名称	処理水供給元	供用開始
厚別融雪槽	厚別水再生プラザ	平成5年1月
発寒融雪槽	発寒清掃工場※1	平成7年2月
創成川融雪管	創成川水再生プラザ	平成9年1月
新川融雪槽	新川水再生プラザ	平成16年2月※2
伏古川融雪管	伏古川水再生プラザ	平成16年2月

※1 発寒融雪槽は清掃工場の焼却余熱を利用
※2 令和4年2月:新川融雪槽の能力を増強



新川融雪槽



伏古川融雪管

下水道管投雪施設

下水道管投雪施設は、大口径の既設下水道管に投雪口、水深確保用のせきを設置して、ダンプトラックから下水道管に雪を投入して、未処理下水の持つ熱エネルギーにより融雪を行う施設です。

施設名	処理水供給元	供用開始
発寒下水道管投雪施設	未処理下水	平成12年1月
八軒下水道管投雪施設	未処理下水	平成15年2月



八軒下水道管投雪施設

流雪溝

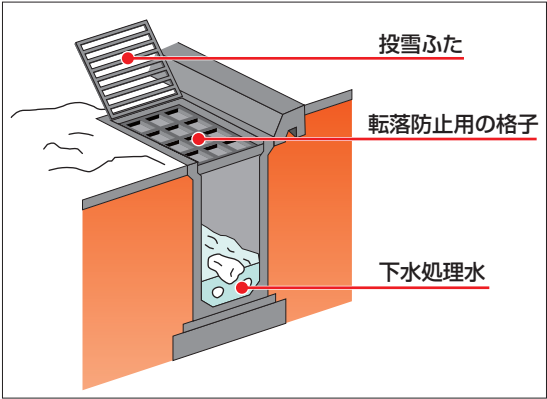
流雪溝は、幹線道路沿いに設置された側溝に、処理水を送り、投雪口から投入された雪を流して処理する施設です。また、処理水は水温が高いため、融雪能力も期待できます。

現在、市内に7カ所の流雪溝が整備されており、投雪作業は、沿線住民が行っています。

流雪溝が整備されることにより、道路の両側に積まれていた雪山がなくなり、すっきりとした街並みになるとともに、雪山による道路幅減少・視界不良等が解消され交通安全面でも大きな効果を発揮しています。



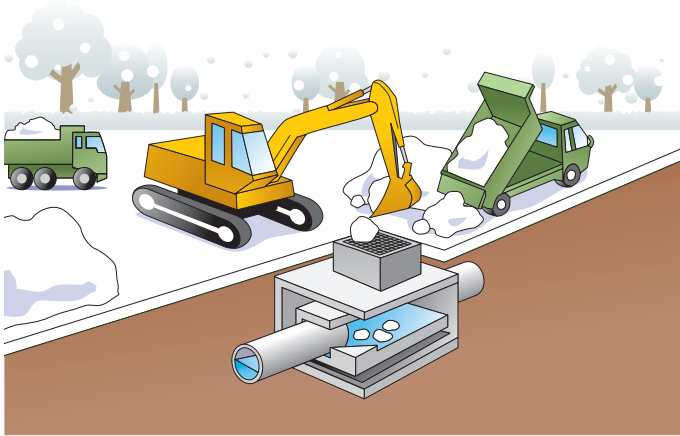
流雪溝投雪状況



流雪溝構造図

地域密着型雪処理施設

平成16年度から、地域密着型雪処理施設の整備を進めています。この施設は、公園などのオープンスペースに雪を一時堆積し、近接した既設下水道管に投雪口を設置し、堆積された雪をショベルカーで投雪口に投入し、雪を融かす、比較的小規模な施設です。



地域密着型雪処理施設イメージ図

施設名称	処理水供給元	供用開始
月寒公園地域密着型雪処理施設	未処理下水	平成17年3月
伏古公園北地域密着型雪処理施設	未処理下水	平成18年2月
アクセスサッポロ地域密着型雪処理施設	未処理下水	平成20年2月



月寒公園投雪状況